

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年10月24日

【評価実施概要】

事業所番号	4073400469
法人名	社会福祉法人 同朋会
事業所名	グループホーム国分
所在地 (電話番号)	大宰府市大字国分字川原271-1 (電話)092-918-8288
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成19年9月12日

【情報提供票より】(平成19年7月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 7月 10日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14人, 非常勤 0人, 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物形態	併設 単独	新築 改築
建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	4 階建ての	3 階 ~ 4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費	有
敷金	有(円)	有 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 無 100,000円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または月額 40,000円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	9 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	76 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小西第一病院 岩崎外科医院 安元歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

西鉄大牟田線とJR鹿児島本線が平行して走っている間に位置し、4階立ての3階・4階がグループホームになっている。すぐ側には九州自動車道が窓越しに走っているが、騒音はなく、どっしりと腰を据えた大宰府の山々や眼下に広がった田園風景が利用者や職員の心をゆったりとさせている。3階・4階のエレベーターを降りると、引き戸の玄関が我が家に帰ったようである。玄関や食堂等の共用空間、居室のスペースは規定よりも広く、ゆったりとした環境の中で、ホームが3・4階であることから、植木や花をたくさん置いている。職員は笑顔を絶やさず「その人らしく」暮らせるように支援しており、利用者の表情は穏やかである。利用者の重度化や終末期の対応は想定していないが、同系列の介護保険施設が複数あるので、本人や家族との話し合いの中で住み替え先の決定をしている。開設4年目にはいり、更なる利用者への質の高いケアの提供が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善項目に関して努力して改善に取り組んでいる部分と、そうでない部分がある。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) サービス評価の意義や目的を全職員に伝えているが、自己評価については、全職員による取り組みとなっていない。自己評価は項目一つひとつを全職員で点検していく過程が重要なので、全職員で取り組んでサービスの質の確保に活かすことが望まれる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、2ヶ月に1回、地域の区長と区評議委員、地域包括支援センター、市保健福祉部すこやか長寿課グループホーム担当者、家族、老人保健施設事務長の参加で行われている。ホームの生活や地域交流に向けての話など行われており、今後に期待ができる。市町村担当窓口へ出向いて地域密着型サービスとしての考え方や実態、相談に行くことはしていないので、その機会づくりが望まれる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) ホームだよりを3ヶ月に1回発行してホーム内の様子を報告している。また、家族の訪問時に日々の生活や健康状態について個別に報告し、金銭管理についても確認、了承を得ている。意見箱を設置したり、家族の訪問時に必ずコミュニケーションをとって、意見等、何かあれば、全体会や朝会で報告し、運営に反映させ、また、それを家族に報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、会費も納入しているが、常会に出席はしていない。同じ敷地内に老人保健施設やホームの階下にデイサービスがあり、夏祭りの時は地域の人たちの参加があったり、訪問してくる幼稚園児やボランティアとの交流ができています。ホームの立地条件もあるが、積極的に地域へ出向いた交流ができるような創意工夫が望まれる。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	明確な理念をつくり、玄関に掲げているが、これまでの基本方針に加えて、地域密着型サービスとしての内容になっていない。	○	地域との関係性が重視されるようになってきているので、何が大切なかを全職員で考え、地域密着型としての理念の見直しをすることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送りの時、常に意識付けを行い、また、個別に留意が必要な時に理念に立ち返っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、会費も納入しているが、常会に出席はしていない。同じ敷地内に老人保健施設やホームの階下にデイサービスがあり、夏祭りの時は地域の人たちの参加があったり、訪問してくる幼稚園児やボランティアとの交流ができています。	○	ホームの立地条件もあるが、積極的に地域へ出向いた交流ができるような創意工夫が望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝えているが、自己評価については、全職員による取り組みとなっていない。	○	自己評価は項目一つひとつを全職員で点検していく過程が重要なので要改善や不十分な点についての協議を、全職員で取り組んで今後のサービスの質の確保に活かして欲しい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域の区長と区評議委員、地域包括支援センター、市保健福祉部すこやか長寿課グループホーム担当者、家族、老人保健施設事務長の参加で行われている。ホームの生活や地域交流に向けての話等行われており、今後に期待ができる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当窓口へ出向いて地域密着型サービスとしての考え方やホームの情報提供や相談に行くことが行っていない。	○	市町村担当窓口に対して、ホームの実態やケアサービスの取り組みについておりに触れて伝えたり、例えば、市職員の研修場所として活用してもらうなど今後、運営推進会議以外での連携への取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や一部職員は成年後見制度や地域福祉権利擁護事業について知っており、利用者家族に情報の提供をしたことがある。職員も法人内の研修で学習しているが、職員の交代が多く、知らない職員もいる。	○	成年後見制度や地域福祉権利擁護事業について勉強会を開き、職員の理解を深め、対応が必要と思われる利用者がある場合は、利用者の支援に結びつけられるようにすることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームだよりを3ヶ月月に1回発行してホーム内の様子を報告している。また、家族の訪問時に日々の生活や健康状態について個別に報告し、金銭管理についても確認・了承を得ている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、家族の訪問時に必ずコミュニケーションをとっている。意見等、何かあれば、全体会や朝会で報告し、運営に反映させ、また、それを家族に報告している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ない離職が少々多い。辞めるということを利用者に言わないようにしている。利用者が、時に「会いたい」と1～2週間はいうことがあるが、混乱はない。	○	利用者にとって馴染みの職員が継続的に利用者を支えるような取り組みが望まれる。
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたって性別や年齢によって排除することはしていない。手芸や工作の好きな職員、園芸や畑、あるいはドライブの好きな職員、それぞれ得意とすることでホームの運営に活かされている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	積極的に研修は実施していないが、月1回の全体会や朝会で人権の尊重に関する話が出来ている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の介護の中で技術指導を行っている、OJTとしては職員なりに目標をもって取り組んでいるが、ホーム内外の研修会や勉強会への取り組みが、あまりできていない。	○	職員各自に応じた段階的な学びの機会を職員と話し合いながら、年間計画の中で位置づけていく運営面での工夫が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内のグループホームや老人保健施設等との交流はあるが、グループホーム協議会に加入していない。現時点では、協議会や連絡会に加入する考えをもっていないが、同業者との交流は望まれている。</p>	○	<p>法人外の同業者との交流を行い、法人外の人たちの意見を参考とし、ケアに活かされることが望まれる。</p>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>法人内の老人保健施設やデイサービス利用者の入居が多く、入居時点ですでに顔見知りになっており、半数の利用者は、見学もなく入居に至っている。半数の方は、見学や1～2時間体験をして入居している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食事の片付けや食器洗い、洗濯物たたみなど、それぞれ自分のできることを自分の役割として主体的に行動している。利用者とのかかわりの中で関係が築かれるよう努めている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時には、利用者・家族から生活歴や暮らし方の希望や意向等を聞き取り、日々のケアに活かされている。また、日々ケアを行う中で利用者の希望・意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>管理者・計画作成担当者を交えた介護計画を職員全員で検討し、利用者のニーズに応じた介護計画が作成されている。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月、モニタリングを行い、本人、家族、必要な関係者により3ヶ月毎に介護計画の見直しができている。また、状態の変化に応じた介護計画の見直し、変更ができており、ケース記録も誰が見てもわかりやすく、介護計画に反映されている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や散歩など極力、利用者・家族の要望に応じた対応に努めている。墓参りなどは、家族が対応している。また、家族訪問時に宿泊や、食事の希望があれば支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族が希望するかかりつけ医の継続受診の支援、入院可能な協力医療機関への受診・往診の支援が行われている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは利用者の重度化や終末期の取り組みは行っておらず、利用者・家族へは医療機関の入院や施設入所などの説明を行っている。重篤化してきた時を想定して関係機関との連携は図っている。職員にも口頭ではあるが、重度化や終末期に関して周知されており、共有が出来ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々、口頭ではあるが、誇りやプライバシーを損ねるような言動や対応をしないようにと周知徹底に努めている。また、利用者の自尊心、羞恥心への配慮を欠かさないような対応ができています。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夜間の入浴は、職員が1人のため対応が出来ていないが、入浴以外のケアについては、利用者のペースや希望を優先した支援を行なっている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホーム内で利用者と一緒に栽培した野菜を利用した料理作りをしたり、食事の下準備や後片付けが一緒に行われており、和やかな食事の時間が過せている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一日おきの午前中となっている。毎日、半数の利用者の入浴支援をしているので、希望がある時は予定日以外でも対応している。また、入浴拒否のときは無理強いをせず、さりげない促しが行われている。		
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの能力や好みの配慮をし、利用者ができる事を生活リハビリとして、職員と共に食事作りやホームの敷地内での野菜作りなどが行われている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候の良い時期にホーム周辺の散歩をしている。ドライブ・バスハイク・食事など、利用者の希望に応じた外出が実施されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全居室には施錠はしていないが、ホームが4階建の3・4階部分にあり、エレベータロックを家族の同意を得て行われている。	○	一部の居室においてはベルや鈴などの音で対応するなどの工夫が見られたので、エレベーターにおいても利用者の安全を図りながら日常的に鍵をかけない工夫が望まれる。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、昼間と夜間を想定し、避難経路を決めて、安全に利用者を誘導が出来るような避難訓練を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝・夕食は併設施設の管理栄養士が献立作成したバランスの取れた食事摂取が出来ている。摂取量においても毎食後チェックし、記録をしている。水分の記録はしていないが、3度の食事の他、10時・15時・入浴後と細かい配慮と促しが行われ、概ね把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・食堂はゆったりとして、くつろげる空間があり、季節ごとの貼り絵や行事の写真が飾られている。また、利用者が使用している足踏みミシンが置いてあり、生活感が感じられる落ち着いた雰囲気がある。ホームすぐ側には高速道路があるにもかかわらず、不快な音は無い。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>標準以上の十分なスペースを確保しており、ゆったりとした雰囲気の居室である。利用者の馴染みの物や仏壇が置かれ、利用者が心地よく過ごせるようにしている。</p>		